「教育県大分」創造に向けた地域別意見交換会 in 玖珠
開催概要

［開催日：令和７年 11 月６日（木）］

［学校訪問］玖珠町立くす若草小中学校
［訪 問 者］大分県教育委員会（山田教育長、教育委員、教育次長　他）
玖珠町教育委員会（梶原教育長、教育委員、課長　他）

１. 概要説明

くす若草小中　小原校長

くす若草小中　佐藤教頭

くす若草小中学校は、令和６年４月に開校。既存の学校生活に困難を感じる子どもたちが楽しく通える学校を目指し、学校の教育目標を「みんなが主役の学校」に設定した。全員が幸せになるウェルビーイングを目指している。

文部科学省の認可を受けた特別な教育課程を編成する「学びの多様化学校」として開校した。教育課程の３つの柱として、対話を通じて自分理解・他者理解を促す「対話」、自然から学び創造性・健やかな心身を育む「野遊び」、協働し創造する力をプロジェクトを通じて学ぶ「探究」を設定した。また、自分のペース・学び方で基礎を学ぶ「教科の学び・自学」の時間も設けている。

具体的な活動としては、朝夕の「対話」や、年齢を超えた「全校対話」を実施し、互いの思いをアウトプットし、価値観のすり合わせや学び合いを大切にしている。「野遊び」では、アウトドアや野菜作りなどの体験活動を行っている。「探究」では、個人の「好き」を伸ばす「マイ探究」、みんなでいろいろな問題について考える「ワールド探究」、楽しい活動を自分たちで計画・実行する「催し」がある。

学校には、県内外から学校見学等の問い合わせが多く、「学びの多様化学校」のニーズが高まっていると感じている。

「マイ探究」の授業参観の様子

２. 意見交換会（主な意見）

県教育委員

- 先生方は得意分野を生かし、専門外の分野でも子どもたちと一緒に学びを深めている。
- 先生方は児童生徒と同じ目線で楽しみながら教えており、学校の雰囲気が良い。
- 「指導者」ではなく「伴走者」という考え方で接し、児童生徒との信頼を築いている。
- 財源確保に向けて、企業版ふるさと納税など、公的な資金確保の仕組みの導入について検討してみてはどうか。
- 卒業生が進学した高校側にも生徒一人ひとりの特性に合った若草の指導ノウハウを引き継いでいくことが大事ではないか。
- 児童生徒の成長段階において、体を動かして筋力を鍛えたりストレスを発散したりすることが必要で、できるだけ多くの時間、体が動かせる環境を整えてほしい。

［意見交換会テーマ］「芯の通った学校組織」を基盤とした教育水準の向上
～学校 DX の推進と校種間連携について～
［出　席　者］　　学校訪問参加者及び学校関係者

1. 玖珠町の取組説明

（1）GIGAスクール構想の推進について

クラウド活用による校務改善の具体的な取組	
学校プラットフォームの構築	Ｇｏｏｇｌｅサイトを利用、朝の情報共有をすべてここから開始
出欠連絡の管理・共有（テトル）	保護者はいつでも入力ＯＫ、担任も即座に把握可能
スケジュールの管理・共有	行事や来訪者、出張予定を一括管理➡日報に即時反映
週案の管理・共有	共同編集・確認が可能、時間と場所の制約なし、教務の負担軽減
文書管理システムの電子化	クラウド上で決済可能、担当者にはチャットで連絡

（2）今後の課題と解決策

課題	解決策
ＩＣＴ活用による「深い学びの実現」	玖珠町ＧＩＧＡスクール・学校ＤＸ推進協議会設置、課題解決の方策を決定し、小中連携を強化
校務ＤＸと授業ＤＸの実現に向けた学校間格差	
ＩＣＴ端末活用を含めた校種による意識の乖離	校種間体験研修の実施
ＩＣＴ端末を活用した特別支援教育の充実	早期発見に向けたアセスメントの開発や児童の実態に応じたアプリ活用の取組（文科省と事業締結）

2. 意見交換（主な意見）

玖珠町校長会

・ＤＸの最大の目的は、町内の教職員に便利さを実感してもらい、短縮した時間で「授業や児童生徒に向かう時間」を増やすことである。クラウドを利用した校務管理は、その面で効果が出ている。
・小中学校での早い時期からのタイピング習得は、高校以降でもすぐに端末を使いこなせるという点で優位である。
・地域連携やジュニアＩＣＴリーダーの育成などを通じた成果を地域へ還元することで、将来的な人材の流出を防ぎ、次世代の町を守る意識の醸成を目指している。
・今年度から、町内の小中学校教員が異校種の学校に出向く体験研修を実施している。特に、くす若草小中学校での研修では、参加者が子どもと教職員との「空気感」「関係性」を感じ取り、「特別な学校ではない」という認識を共有し、自校の取組に反映されることを狙っている。
・小規模校の連携についてオンラインを活用しつつ、実際に会って人間関係を築くことに重点を置いている。

玖珠町教育委員

・中高の連携では、中学校と高校の先生がお互いの授業を見合う取組をしている。また、中学校では、学校運営協議会が中心となり「未来塾」を立ち上げ、数学の学習支援を行っている。学校の課題を学校・教育委員会・地域が連携して解決しようとしている。

3. 山田教育長より

山田教育長

幼小中だけでなく、中高の連携も重要であるという認識が示された。玖珠美山高校は、様々な取組を通じて「玖珠美山高校にしかない魅力づくり」を行っている。この魅力を地域住民に理解してもらうことが重要になるので、積極的に情報発信をして、地元の小中学生に魅力を伝えていってほしい。現在、玖珠美山高校への地元生徒の進学率を引き上げることが課題。この課題解決に向けて地域からのお力添えをこれからもお願いしたい。